

ヨシナカ新聞

9月号

発行所

（株）北陸ヨシナカ

東京営業所

TEL: 03-3555-0796

気温の平年値

天気予報で、平年と比べて気温が高い（低い）とよく耳にしますが、この平年というのはいつからいつまでなのでしょう。現在は1981年から2010年までの30年間の平均値と比較して平年より気温が高い（低い）と言っています。そして、

ジャパンの漢字はデフィカルト

日本語を勉強中のラトリア人の男性が「生」の読み方多くて死亡しました」とツイートに上げ、話題になっています。

先生、生きる、生える、生ビール、一生、生もの、生糸、生い立ち、生粋、生業（なりわい）、芝生等、「生」は158通りの読み方があるそうです。

どうしてこんなに多いのでしょうか。それは、生きるという前向きな言葉から様々なところで使われるうちに読み方が多様化したのではないかと、「死」は一つの読み方しかないところからこの節が有力

この平年は10年に1度、末尾が1の年に更新する決まりとなっていますので、次回の更新は来年2021年で、1991年から2020年までの30年間の値を使うよう変更される予定です。

世界気象機関(WMO)は2010年代の10年間の平均気温が過去最高の高さだったと発表してと考えられています。

一方で、スマホやパソコンの普及で実に66%の日本人が漢字が書けなくなったと回答しています。読めるが書けない。私もその一人でいざ書こうとするとわからず、書けなくなった原因のスマホやパソコンで漢字を検索するという作業を繰り返しています。

このように、文明の利器によって忘れていた漢字ですが、一方で文明の利器によって漢字は消滅の危機から守られもしました。漢字は江戸時代から何度も廃止の危機に瀕しており、幕末には前島密（ひそか）が将軍・徳川慶喜に、漢

字のような複雑極まりない文字を覚えているから教育が普及しないと訴えました。

戦後にはGHQが廃止に動きました。戦時中に国威発揚のスローガン、「一億玉砕」のような漢字で書かれた言葉が軍国主義を加速させたと考えたからです。アルファベットは26文字なのに、漢字は多すぎる、ひらがなで全部出来るだろう、またローマ字に変えればよいという案も出ました。

しかし、1970年代に登場したワーによって、ボタン一つで漢字が変換出来るようになり、漢字廃止・制限論は徐々に下火になりました。

K社員のピアノ奮戦記第二章

クラシックに挑戦(その1)

憧れだったけど、諦めていたピアノを43歳の時に偶然にも習い始めた私ですが、ここまで続けることが出来たのも粘り強く優しく教えて下さった先生方、そして音楽仲間にも恵まれたお陰だと感謝しています。

習い始めてから映画やTVドラマのサントラやポップスを中心に習っていたのですが、発表会や音楽仲間の影響もあって徐々にクラシックにも興味を持ち始めました。最初は2008年にヘンデル作曲の『私を泣かせてください』。旋律の美しさに一耳惚れたのと、私にも弾けるのではないかと思いで挑戦しました。その次に習ったのはリストの『愛の夢第三

番』、TVドラマで主人公とその恋人が演奏していたシーンに感動してから、どうしても演奏したくなり、原曲は難しすぎるので、簡単にアレンジされた（私にとっては難しい）楽譜を手に入れ、挑戦しました。

クラシックを習って感じたことが二つありました、一つは「飽きにくい」ということです。先述の通りサントラ等を中心に挑戦していたのですが、習い続けていくうちに曲に対する感動が薄れていく、悪く言えば飽きてくるのですが、この2曲についてはとても美しい旋律の箇所があり、そこを演奏する度にうっとりしてしまい、飽きることが殆んどありませんでした。また、同じフレーズでも微妙に音階が違っていたり、和音になって

（溶酸素、酸化性成分）が、材料条件として高濃度のCr（母材に対して13w%以上のCr）が必要になります。それらが十分存在しない環境条件下（隙間内部）や材料条件下では不動態皮膜が形成されにくく、その地点が腐食しやすくなります。

アルミサッシや塗装鋼では、化成処理皮膜や塗膜を一度傷付けると、下地が露出し、その地点から腐食が始まりますが、

いたり、左手のリズムが変わっていたりして、覚えるのは大変だったのですが、奥が深いと感じました。

次に感じたのは、先生の教え方が少し厳しくなるということ。サントラ等は基本意外は演奏表現に自由さがあったのですが、クラシックになると、楽譜に書いてある通り忠実に演奏することを求められました。これは多分、先生が小さい頃からクラシックを中心にピアノを習って来られて、私に教えるのとは比較にならないくらい厳しいレッスンを受けておられたからではないかと。だから、私が思っている厳しさは、先生にとっては100分の1にも満たないのではないかと思います。流石にそのことは今でも先生に聞いていませんが。

ステンレス鋼はその点は問題ありません。

以上より、ステンレス鋼は表面研磨等で不動態皮膜が除去されることはありませんが、激しい研磨によって著しく発熱したり、下地金属が変質（加工誘起マルテンサイト相や鋭敏化組織が生成）した場合は、下地金属の耐食性が多少変化することもあります。（参考資料：事例で探すステンレス鋼（工業調査会）

ステンレス豆知識

表面研磨後の不動態被膜

ステンレスの不動態皮膜は、厚さが0.03nm（ナノニウム 100万分の3nm）程度の含水Cr酸化物で、柔軟性に富み、すばやい自己補修作用（self healing作用、数十分の1秒以下で被膜が修復）を有す理想的な表面被膜です。

ただし、環境条件として水および酸素